

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校

澤田 清人

『相手の気持ちを考えて』

朝夕の冷え込みが一段と厳しくなってきました。いつの間にか真冬の装束でバイクに跨り通勤しています。また、東北や北海道では1メートルもの積雪があるとかで、日本中が急な冬の訪れに慌てている状況です。

一方で、自宅玄関先の鉢植えのバラがまた幾つかの蕾をつけています。一体、一年に何度花を咲かせるのか、生命力の逞しさに感動するとともにそれらが開花するのを楽しみにしています。開花したあかつきには、この紙面でも報告させて頂こうと思っています。

さて、火曜日ごとに伝統文化の時間があります。各講師の先生方へのごあいさつをかねて、毎週できるだけ授業の様子を観に行くように努めているのですが、今週の茶道と礼法の授業の中で、同じ言葉が繰り返し使われていることに気づきました。

「相手の気持ちを考えて」「相手様に失礼がないように」ということばです。当然、これまでも使われてきたのですが、どういう訳か今週は特に気にとまりました。

伝統文化の学習では、ともすれば“お作法を身につけること”に重きが置かれがちです。しかし、よくよく考えれば、そのお作法とは自分の所作を美しく見せるため、つまり自分の為ではなく、相手に気持ちよく感じて頂くため、相手様に失礼のないように、つまり、相手の気持ちを考えてのことなのだと遅まきながら気づきました。

ところで、本学園では今年度から幼稚園から大学院まで一貫して「SEL 教育」に力を入れています。「SEL 教育」とは“Social and Emotional Learning”の略で、「非認知能力」を養う教育のことです。自己認識、自己管理、社会認識、関係構築、責任ある意思決定の5つの要素を、学校の教育活動全体を通して育むことを目指すもので、数値化しにくいが見えにくい能力の育成です。一方で、この能力を伸ばすことによって、粘り強く他者と協力しながら物事の解決に取り組むことができるようになるということから、社会に出てから大いに役立つとされています。

人と議論したり協力したりしながら何かを生み出すには、相手の立場や考え方を慮る必要があります。そういう意味では伝統文化の学習の際の相手の気持ちを考えて行動するということは「SEL 教育」を進めるうえで大変有効だということになります。

周囲の人と協働しながらよりよい社会を創る人材の輩出が本学園の大きな目標です。

